

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8202
京都市左京区田中大塚町49
075-701-3210

東京支部の現状と

課題について

東京支部長 馬場 征彦 (昭37年卒)



東支部長としての巻頭言を書くにあたり、東京支部メンバーには勿論、他支部の方々にも参考になるのではないかとの思いを込めて、表記のテーマで記します。

東京支部では、過去数代の支部長及び役員が支部の課題について議論してきました。最近では、東京御在任の池上副会長にも御助言を頂きながら議論を進めているところです。以下にその概要を述べさせて頂きます。

1 東京支部の現状



私の独断や誤解があるかもしれませんが、東京支部についてアウトラインと特徴を記してみます。

- ・支部会員数 約2100名
- ・支部納入者 約750名
- (いずれも平16年度の推定値)
- ・会費納入者数は最近、1011-944-871-750名と減少してきています。
- ・ホームページを開設
- ・支部関連の情報を支部HPに掲載。URL: <http://www.rakuyukai.org/>
- ・支部役員 支部長、副支部長、総務幹事、会計幹事、庶務幹事の5名。支部長は1年任期で出身の企業や所属機関は広い範囲で持回っています。最近の例では、三菱電機、日立製作所、東芝、富士通、J R総研、NEC、JAXA、NTT (含む予定) です。

副支部長は次期支部長含みで選

任されますし、他の幹事諸氏も広く各企業からお願いしています。ある意味では民主的な運営ですが、求心力とノウハウの継承が課題でもあります。

・年間の活動

支部総会、幹事会、役員会の他旅行会・見学会を各一回 慶事関連(喜寿・米寿)

趣味の会の支援(ゴルフ、テニス、囲碁、将棋、麻雀、謡曲の六団体) 東京支部独自の活動として、拡大クラス会の支援(現在は昭和17年〜44年までの五団体)

2 支部活動における課題

その第一は財政問題であり、第二は若年層(といっても60歳位以下)の参加意識の向上、第三には支部活動のありかた、であります。互いに無関係ではありませんが、以下には単純化して記します。

(1) 財政問題

現在直面する最も大きな課題です。その原因は本年1月の会報で池上副会長が述べておられる通りです。ここではその深刻さの程度を具体的な予算の数値で記します。(平16・17年度は推定値です)

単位万円	収入	支出	繰越金
平14年度			233
平15年度	656	368	287
平16年度	374	251	123
平17年度	240	240	0

即ち、平17年度末には繰越金が0

となり平18年度には赤字転落です。

ここで、平15年度は名簿広告収入288万円を含み、平17年度は名簿発行見送りのために広告収入は0としています。名簿発行を予定通りに行っても、広告収入は極めて厳しい状況にあり、過去の趨勢を延長すると前回(平15年度)より減って150万円程度と見込まれます。要は、東京支部の財政は、会費納入率の低下と名簿広告募集難により破綻寸前だということなのです。これに対する当面の施策は「入るを計って出づるを制する」しかないと思います。即ち毎年の支部会費収入約75万円と2年毎の広告または寄付収入を今後の期待値100万円とし、その1年分50万円を基本収入と考えて経常的な支出をそれらの合計125万円程度以下に抑えること、即ち次項を考えざるを得ないと思います。

* 諸支出の削減

* 受益者負担増

* 会費納入率の改善

* 臨時の寄付募集

等について議論を進めています。

このうち、納入率改善については納入率が悪くなる世代以降の学年幹事の知恵を借りながら検討に着手した所です。長期的には、本部でスタートすることが決まった「洛友会のありかた検討WG」に

期待しています。

(2) 若年層の参加意識の向上

参加意識の問題の本質は洛友会への期待やメリットにあると思われまます。しかし、そもそも論を振りかざしても支部レベルでは如何ともしがたいので、当面は実践的に

* 支部で学年幹事連絡網構築

* 学年幹事は学年連絡網構築

をすることに着手しました。

この連絡網で洛友会関連情報を流すことにし、少しでも洛友会への関心をプロモートしたいの思いです。この活動のために、今年度新たに庶務幹事を新設しHPや絡網関連に専念してもらうことにしました。また、若手(と言っても支部長世代以降)の学年幹事による不定期の懇談会をスタートさせ本年に2回の集まりを持ちました。具体的な成果は未だですが、手ごたえを感じています。継続することが大切であると思っております。

(3) 支部活動のありかた

長い歴史と諸先輩の熱心な活動によって育まれてきた現在の支部活動は、可能ならば全てを継続して行きたいとの思いではありませんが、(1)項で記した財政の逼迫のため、もはや不可能になってきています。

本部と連動する部分については、先述しました本部のWGの成

果に準じることが当然であります。支部固有の活動部分については、支部において変革（財政の許容範囲以内に縮小）せざるを得ないと思います。早ければ今年度の支部総会にお計りすることになるでしょう。

3 おわりに

国立大学は大学院大学化と独立行政法人化の流れによって大学内部にも大きな変化が生じているように見受けられます。一方大学の競争は卒業生をも含めた全学的な広がり、先駆的な大学では、全卒業生の組織化も合わせて進めているようであり、例えば、生涯メールアドレスの配布等。洛友会は全学同窓会ではありませんが、このような流れをも意識して、歴史と伝統は是非維持して行かねばならないと全役員が感じていることを念のために申し添えておきます。

また、押しなべて昭35年以前の会員の皆様の会費納入率は極めて良好であり、前記の支部改革について若干なりとも釈然とされない面があるのではないかと推察申し上げますが、収入の大部分は広告収入にあつたことだけはご理解頂きたいと存じます。

いづれにせよ、支部活動内容の変革は待たない状態にあることにはご理解賜りたいのであります。

会員寄稿

青森県東通村での近況

井上 茂 (昭48年卒)

卒業後、早三十余年が経過した。上之園親佐先生の研究室に学び、東北電力に入るに際しては電力系統分野に携わりたいと思つたが、初赴任先は原子力開発本部であった。以来、原子力一筋で過ごすこととなり、茨城県の日本原電東海第二への出向、宮城県の女川での三基、そして現在の青森県東通1号機と計五基の原子力発電所の建設に携わつて来た。原子力発電所の立地上、遠隔地での勤務が長くなるのは避けられない。現在は青森県下北郡東通村での生活を楽しんでおり紹介したい。

本州最北の下北半島には、東通村に東北および東京電力が隣接した敷地に原子力発電所を各二基ずつ計四基を、六ヶ所村に日本原燃が再処理工場など核燃料サイクル施設を、むつ市に東京電力が中間貯蔵施設を、大間町にJパワーが大間原子力発電所をそれぞれ計画している。東通村にある両電力の敷地には、将来的に増設可能な余裕が確保されており、下北半島は二十一世紀の我国最大のエネルギー基地となる可能性を持っている。建設を行なっている東北電力東通1号機（沸騰水型 百万キロワット）は、現在電力系統と連携

し試運転中で、出力を段階的に上げながら性能を確認し、今年十月の完成を目指している。完成すると東北電力にとり女川3号機に次ぎ四基目、国内では今年一月に完成の中部電力浜岡5号機に次ぎ五十四基目の発電所となる。また、立地地点としては北陸電力の志賀に次ぐ十八番目となる。

東通村は、まさかり型の半島の右肩にあたる部分で、村名は現むつ市にあつた南部藩代官所の東地域の呼び名に由来する。北は津軽海峡、東は太平洋に面し、約六十五キロメートルの沿岸を持ち、北東端の尻屋岬は灯台や寒立馬と呼ばれる放牧場が有名である。村内には高い山は少なく丘陵地が多く森林が多い。昔はヒバ林に覆われていたというが、ご多分に漏れず今は杉林に変わっている。気候は冷涼で、初夏から夏にかけて「やませ」と呼ばれオホーツク海からの東風がもたらす低温高湿の霧に煩わされる。一方、青森市の大雪が伝えられるせいか県全体が豪雪地帯と思われているようだが、太平洋側の積雪はさほどではない。

当地は、海、山の幸に恵まれ食材が美味しく、採りたての魚介類を食べられるだけでなく、鮎、平目、ウニなど高級珍味で減多に口出来ないものが簡単に食べられる。地元の人には、これ位しか出せるものがないと謙遜するが、他所から来た者は価値観の違いに戸惑

わされる。また、丘陵地には牧場が多くあり肉用牛も多く肥育され、地場産の高ランクの霜降り肉を食べる機会も多い。味と質は確かなようだがブランド確立には供給力不足なようで、当地で肥育した後、最後に仙台など他所の草を少し食べさせその地のブランドになつてしまふようだ。

地理的な条件で集落が広い村内に分立、孤立していたせい、能舞や神楽と呼ばれ、紀州熊野の修験者が伝えたという民俗芸能が五百年経つた今も、生活に根ざし各集落に昔のまま傳承され、正月、祭り、祝いの場で演じられている。演目数も多く、また文化財として指定され継承もしっかりとされてお見見えがある。地元の人と交り酒を呑みながら見物している、ふと、中世に遡つたような気になり不思議な気持ちになる。

そんな昔を多く残して来ている東通村も、時代、少子化などの流れの中で、また、原子力発電との共生による発展の中で、大きく変化しようとしている。1号機が今年十月に完成すると、昭和四十年に村から発電所設置の誘致を請けて以来、実に四十年を要したことになる。原子力発電所立地の仕事の息の長さをご理解頂けるかと思ふ。さて、原子力界に身を投じて三十余年が経つと述べたが、原子力発電の興隆、発展そして停滞気味の現状と、大きな流れの中を走り

抜けて来た。日本の原子力は電力会社とブランドメーカーが一緒になり築いて来たが、メーカーには優秀な方々を原子力界に配置してきて頂き負う所も多い。洛友会員を始めとし同窓の技術者と一緒に仕事をさせてもらう機会も多かった。しかし、新規建設がストップする今後、メーカーの原子力への人材資源配布も今までのようには行かなくなつていくようだ。原子力発電は長期間安定して稼働することに、他電源と比べ遜色のない経済性を有しているものと考え、電力自由化の中で、初期投資が必要で、バックエンド対策が超長期的にわたることなど、短期的な経済メカニズムが重視される競争環境にそぐわない面も持つており、新設のインセンティブは働きにくい状況にある。エネルギーセキュリティの確保や京都議定書の履行など地球環境問題への対応など、原子力の必要性は今後さらに増すと考えている。是非、新規原子力発電所を着工させやすいエネルギー政策の議論がなされることを願っている。

水力発電よもやま話

美濃 由明 (昭56年卒)

地球温暖化防止のための京都議定書がようやく発効し、自然エネルギーや原子力の活用など温暖化ガスの排出が少ない発電システム

や、エネルギーの効率利用がこれから益々重要になってくるものと思います。水力発電は、自然エネルギーの活用で経済的に競争力のある唯一の発電方式ではないかと思えます。残念ながら、日本では、経済的に開発できる大規模な地点は残されておりませんが、世界に目を向けると、経済的に開発できる地点はまだたくさん残っています。特に発展途上国では、水力発電は燃料が不要というメリット（化石燃料を輸入する外貨がいらない、自国で出る化石燃料は輸出して外貨を稼ぎたい）があるだけでなく、治水・灌漑や生活用水の確保のために多目的ダムが必要といったニーズもあり、開発意欲が高いようです。ダムによる自然破壊といった批判もありますが、ダム湖によって新たな自然体系ができることもできますし、地球温暖化対策としての水力発電の活用が、もっと脚光を浴びてもいいのではないかと思っています。

水力発電は、自然エネルギーを活用しているため、周辺の自然環境との相互作用なしでは存在しえません。仕事で何年か関係してきた中で、意外だったこと、面白かったことなど、色々なことを見聞きすることができました。その中で印象深かったものをいくつか紹介したいと思います。なお、古い話もあり、数字等不正確なところがあるかもしれませんが御容赦下さい。

(1)大雨が降ると出力が下がる
台風などで大雨が降ると水が増えるのだから、水力発電所はフル出力で運転できるはずだ、と単純に考えていたのですが、実は、川の水が増えすぎると出力が下がる発電所が多い。これは、放水口のところで川の水面が上がると、落差が小さくなるためである。さらに、立地条件によっては、川の流量が多いと、水車への土砂の流入を避けるため停止することもあつた。あまり水が多すぎても困るのです。

(2)えん堤の遺跡？
出力100kWにも満たない小さな水力発電所で、毎年のように取水口回りの土砂を取るのに修繕費がかかり経済性が悪いというので見に行った時の話です。取水口地点で川を見てもえん堤がない。「えん堤はこれです」という説明で足元を見てみると河原にえん堤の頂上だけがあるので。実は、下流1kmほど離れたところに砂防ダムができて、たまつた土砂で川底が上がりえん堤が埋まってしまつていたので。「昔はえん堤でせき止められてできた貯水池に飛び込めたのですが」ということですが、今やえん堤は遺跡に。なお、土砂の問題は、土木部門で取水口を改造して対応してくれました。

(3)狸の夫婦？
これも300kWぐらいの小さな発電所での話です。水車の振動が大きくなつて非常停止したので調べてみると、水車ランナに狸の死体が詰まつていました。取水口のスクリーンは通り抜けるはずがないので、スクリーン以降のわずかの隙間から落ちたもしか考えられない。ちょうどガイドベーンの間は通れないという微妙な大きさだったためそこで引つかつたようです。再発可能性のある隙間は塞いでおかなければならないが、こんなドンくさいやつはそうおらんだろうからそれほど急ぐこともないか、ということに結局、少ししてから隙間を塞ぐ対策を実施しました。それから1年ほど過ぎた頃、定期点検だったか何かの機会に水車をのぞいてみると、白骨化した狸の死骸があつたのです。水車の振動記録を詳しく調べてみると、前回、狸が落ちてからそう時間がたたないうちにまた落ちたらしい。今回は引つかかり方が良かったのか、あまり振動が大きくならず気が付かなかつたのです。ひよつとしたら狸の夫婦だったのでしようか。

(4)魚がいっぱい
揚水発電所の上池は、川のないところに作られる場合が多い。従つて、水は下ダムからポンプアップして貯められる事になるのですが、結構大きな魚がたくさんいるのです。卵や稚魚が水と一緒にポンプアップされてくるのでしようが、300m—500mにもなる水圧に耐えて生き残っている生命力には驚かされます。また数年前まで、沖縄で海水揚水発電（下池が海）の実証試験が行われておりましたが、試験を始めて1年ほどたつと、上池は、海草が生えて大きな魚が泳いでいるという、まさに海になっていたそうです。自然の力強さを実感します。

(5)二度と見られない風景
黒部峡谷入り口の宇奈月温泉のすぐ近くに、国土交通省の宇奈月ダムがあります。トロッコ電車に乗つて宇奈月ダムを過ぎるとすぐに、西洋のお城をイメージした形の新柳河原発電所が見えてきます。この発電所は、対岸から見るとダム湖に浮かぶお城をイメージしてデザインされたということですが、実際に宇奈月ダムが竣工試験で最高水位まで水をためた時の写真を見ましたが、ちょうどそのイメージに合った風景になっていました。しかし、この風景はこれからも見ることができのでしょうか？ 竣工試験を除けば、宇奈月ダムが設計上の最高水位まで水を貯めるのは、100年に1回といった洪水時だけでしよう。そんな天気のとときに景色を見に行く人がいるはずはない。ということは、設計イメージに合うこの風景は、まず見ることができないことに：

（見に行つておけばよかった）。とはいつても、宇奈月ダムができてダム湖を望む風景は、上流部の圧迫感のある深い溪谷とは対照的に、ずいぶん広々とした感じになつたように思います。柳河原発電所の対岸には町営の露天風呂もできておりましてので、黒部峡谷へも是非一度お出かけ下さい。

とりとめの話になつてしまいましたが、自然エネルギーが脚光を浴びる中、自然エネルギーの優等生である水力発電が良い意味であまり注目されないことを残念に思っています。ここに書きましたように、水力発電所は、自然の中で毎日働いています。本稿が、自然エネルギーである水力発電に親しみを持っていただく一助にもなれば幸いです。

使い易いつて難しい
大谷 尚毅（昭62年卒）
最近の電気製品はややこしくなつたとか、使いにくくなつたと思われたことはないだろうか？次々と出てくる新製品の中に、わざわざ使いにくくしたのだろうかと思つてしまつたような、使い方のヤヤコシイ製品をしばしば目にします。どうしてこんなヤヤコシイ製品を作るんだ？電機メーカーの人間は使い手のことをちつとも分かつてないんじゃないかとお感じになつたことはないだろうか？

そういう私、実は電機メーカーに勤務している。だが、研究部門に籍を置き、製品の仕様や使い勝手を考えるといった面からは完全に別世界の住人であったので、私自身、これまでこの漠然とした疑問・不満を抱きつつも過ごしてきました。しかし最近になって、製品の「使い易さ」に関してと科学的に考えようという動きがメーカー側に出てきて、直接仕事として関わらない部門の私も他人事では済まなくなってきた。以下少し使い易さについて考えてみるが、直接仕事で担当していない弱みでピントが外れているところもあるかもしれない。しかし変な話だが、そのおかげで守るべき秘密が少なく、このような文章が書けるのである。もとより会社の方針などとは無関係である。

では「使い易い」製品とはどういうものか？—改めて考えてみると実はこれがナカナカ一筋縄ではないかない世界なのである。簡単なことじゃないか、ヤヤコシイものなど作らずに、シンプルで分かり易い設計にすれば良いではないか、と思われるかもしれない。しかし、なかなか解決の難しい幾つもの問題があるのだ。

製品の「使い易さ」を表すひとつの指標として、最近よく耳にするユニバーサルデザインという言葉の思い浮かべる方も多いのではないだろうか。ここで素人説明は

やめておくが、単にハンディキャップのある人にもより使い易いように色や形・機能などの様々な面から工夫された製品にしよう、というだけのものではない。「良いイメージを持つて語られた言葉は拡大解釈され、適用範囲は無限に広がる」というのが私の持論であるが、このユニバーサルデザインという言葉も、好まれ多用されるにつれてしだいにそんな様相を呈してきているように思う。使い易さに対する方向性を示してくれるものの、これが全ての問題を解決してくれるものでは無さそうである。

さて、「使い易い」製品を作るのがなぜ難しいのか？

まず一つとして、千差万別な個人環境の全てに対応するように製品を作ろうとするため、どうしても複雑な設計になってしまうことが挙げられる。例えばTVやレコーダーの背面には、実にたくさん出入力端子が並んでいる。機器の発展過程で様々な種類の端子が現れ、それが今同時に使われているからどんどん複雑になっていくのである。DVDの種類は数多く、それが少しずつ皆違ふとか、TVではチャンネルが増え、既存のチャンネルとBS、CSがあるとか、さらにハイビジョンとデジタルとアナログがあるといった状況にある。これら説明するのですら難しい環境を、お客様一人一人に合わせ決めて細かに設定できるように

しようとすると、その設定のためのインターフェースがどんどん複雑になる。さらにオンライン説明書やヘルプ、説明するキャラクタ等を使って複雑さを解消しようとしても、これが逆に余計ややこしく感じさせてしまうことになったりするのだから困りものだ。こんなにややこしくしてしまったのはメーカーの自業自得という面もあるだろう。

この問題を解決したとしても、次の問題は非常に本質的なもので難しい。それは「人によって使い易いと感じるものが異なる」という困った事実である。たとえば高齢者に合わせておけば若者でも使えるというような単純な話ではなく、高齢者に使い易いものが若者には使いづらかったりするのである。また、世代差だけでなく、どうやら個々人の事情でかなり変わってしまうようなのだ。これはかなり困ったことで、どんなに頑張っても皆を納得させることは出来ないということになってしまうのだ。そしてこれは、設計者自身が使い易いと考えたものを作ればそれで良いとは言えないということにも繋がる。だいたい、自分自身が使い易いと思えない製品を設計することなど出来るのだろうか？それでもまだ国内向けなら身内や知人等を頼りに感覚を掴めても、海外向けの製品となると…。

この世界と同様、使い易さの感覚世界においてもカリスマ性の有るデザイナーが出て「これが使い易いデザインだ」と強烈に主張し、そのブランドの威力で皆に認めさせるという方向での解決というのもあるかもしれない。

そして最後の難敵は、言わずと知れたコストである。

何かを改善しようとするとき多かれ少なかれコストがかかる。しかし最近価格は総じて安く、コストをかけ難い。「使い易いより店頭価格が安いほうが製品は売れる」、「結局お客様は使い易さに対して文句は言うが、対価を払ってはいくれない」のどと言われると設計者のほうもそんな気がして、コストのかかる改善案は取り下げてしまうことになる。先述した「使い易さ」の個人差の問題も、いろいろな製品タイプからおお客様の好みで選んでいただくとか、きめ細かな設定変更が出来るように作るという方法である程度の解決が出来ると思うのだが、これはかなりのコストアップを招くことになる。なかなか踏み切れないところだ。

作り手側の勝手な思いを言わせてもらえれば、使い易さに対してもう少しコストをかけさせて欲しいと思う。それはつまり、皆さんがもう少し使い易さに関心を持って製品を選び、少々高くてもその使い易さに見合っていれば買っていたきたいのである。実際の使

い易さは店頭で少し触れただけでは分かり難いかもしれないから、様々な情報を活用して本当に使い易く良いものを選んでいただきたい。結局それが電気製品を使い易くする確実な方法である。

そうだ引っ越ししよう！

櫻井 浩一(平3年卒)

引っ越しというのは、大変ですが、楽しいものでもあります。

私は、今年に入ってから転勤に伴い引っ越しをしました。夫婦2人だけでそれほど荷物はないのですが、世帯全体の引っ越しですので、大変といえば大変です。ここでは、引っ越しの際に感じたことを書きたいと思います。

まずは、荷物の整理です。普段の掃除では、目に付くところだけしか片付けませんが、引っ越しになると、家中のすべての物に一度は目を通し、片付けなければなりません。押し入れの中に入れておいたの段ボール箱などは、特に曲者です。アルバムや本、おみやげの雑貨、UFOキャッチャーの戦利品など、いろんなものが出てきます。ここまで言えば、あとはいくつ捨てたかのご想像のとおりです。捨てようにも捨てられない思い出の品々。それらをついじつくり見て回想にふけるうちに時間はどんどん過ぎていきます。それで結局は何も捨てることなく、また

同じ段ボールに詰め直すだけになつてしまします。でも、なんだかそれが楽しいのです。引越しの準備は全く進まないのですが、妙な充実感があります。

また大変なのが、衣料品です。妻のほうが、当たり前のことで、私よりもずっと衣装持ちです。押し入れの衣装ケースから、いつ買ったのか、いつ頃着ていたのかわからない洋服が山ほど出てきます。特に痛んでいるところもなく、着ようと思えば着られるものばかり。問題は、やはりデザインです。流行が変わったから恥ずかしくて着られない、あるいは自分の好みが変わったから着たいと思わないのどちらかのようなのです。

服に無頓着な私でも、同様に感じたことが一つあります。それはネクタイです。捨てられずにしまつてあつた黒系や赤系のものがぞろぞろと出てきます。今はと言えば、青系や黄系の物ばかりを好んで使っていることに気がつきません。4、5年前はあれほど格好いと思ひ、好きだつた色が、今では何も興味も無くなつています。こんな好みが変わるものなのか、我が事ながら不思議なものです。人の考え方や性格には一貫性があつて、そんなに変わることがない、特に自分自身はそうだと思いますが、実際は、自分が気づかないだけで、生活環境、仕事等あるいは単に年月の経過によつ

て、意外にも大きく変化しているものなのかもしれません。

さて、もう一つ感じたのは、ゴミです。引越しては粗大ゴミが多く出ます。私の住んでいた街は、粗大ゴミに関して寛容で、たとえば自転車は、不要品と書いた紙を貼り付けて、粗大ゴミの日に出すだけで、費用負担もなく捨てられます。捨てるのは簡単なのですが、何となく後ろめたさを感じずにはいられません。

私の折り畳み自転車は、致命的な不具合は無く、整備すれば乗れるものだったので、簡単に粗大ゴミに出せるというルールに甘えて、捨ててしまいました。あるプレゼントで戴いたものの、ほとんど乗る機会がなく、埃をかぶつていたのであります。

世の中に物が溢れている現在、一世帯が所有する物品の種類を数えたら、百単位では足らず、千単位になると聞いたことがありますが、捨てられるゴミだから捨てるというのには、確かに合法ですが、環境には悪影響を与えてしまします。ルールを守るのは当然の事ですが、無駄使いしない、使わないものは最初から買つたり貰つたりしない、ゴミをなるべく出さないといったような、私たち消費者の行動こそが大切なのだ、と反省させられます。

す。引越しだけでなく、普段の仕事などでもそうでしょう。「あれば便利」は、裏を返せば「無くても大丈夫」ということだから、どんどん捨てられるのではないかと、と頭では理解できるものの、いざそうしようと思つてもできないものです。「あれば便利」という感覚は、現代人にとっては自然なものです。世の中のすべての物やサービスは「あれば便利」をベースに発展してきたといつても過言ではないでしょう。しかし、個人消費のレベルで「あれば便利」だから「とりあえず手に入れておく」という行動は、反省すべきなのでしょう。私の折り畳み自転車がまさにそれです。

以上が、引越しの際に多くの必要な物や不要な物に囲まれながら、感じたことです。かなり昔のCMに「そうだ引越しよう！」というフレーズがありました。そんな思いつきの引越しは非現実的ですが、やってみると意外と面白いのかもしれない。

引越しは、今までの暮らしを振り返るいいきっかけになり、自分の生き様や自分を取り囲む社会を見つめ直すヒントを与えてくれます。そして、違う土地で暮らし始めれば、自分の視野や行動範囲が変わり、生活に必ず変化が起るはず。未知の何かに出会え

るチャンスも増えるでしょう。ひとつとした風水学的な良い効果も期待できるかもしれません。季節は春です。「そうだ引越しよう！」とまではいかないまでも、部屋の模様替えくらいはしてみたいかがでしょうか。

本部だより

本部総会開催のお知らせ

平成17年度本部総会は左記により開催されます。多数の方の来場をお待ちいたしております。

日時 平成17年6月18日(土)14時
会場 東京都港区白金台・八芳園
電話 03-3443-3111

本部役員会報告

平成16年度本部役員会は去る2月5日(土)14時30分より京都タワーホテルにて開催された。

役員会には池上丈夫副会長をはじめ各支部長および代理の方(北海道支部を除く)・本部役員等総勢14名が出席。体調を崩された近藤会長に代わって池上副会長の挨拶の後、議題の審議が行われた。

平成17年度事業計画・収支予算・役員改選議案は本年の本部総会の承認事項ですが、主として洛友会の諸改革(会費納付方法・名

簿発行の形態など)を推進するたため、役員会の基に「WG」(仮称)の設置が承認されました。今後は過日行われた会費に関するアンケート結果を踏まえて納付方法を具体化する「WG」の活動に期待がかかつております。

教室の現況・各支部活動状況等の報告を最後に会議は定刻に終了しました。 事務局 記

会費納付方法に関するアンケート集計結果報告

前号(新年号)本部だより欄で洛友会活動の活性化に関する改善策の一環として、会費納入方法の多様化についてアンケート用紙を5406名の会員の皆様にお配りし、670名(24%)の方々から回答いただきました。ご協力誠にありがとうございました。

アンケート集計表(用紙配布数 5,406名)

回答者数	670名 (12.4%)
無記入者	44名
有効回答数	626名 (100%)
1-(1) 銀行自動振込	140名 (22.4%)
(振込料負担 可)	118名 (84.3%)
(振込料負担 否)	21名 (15.0%)
1-(2) 郵便局・コンビニ	486名 (77.6%)
(振込料負担 可)	400名 (82.3%)
(振込料負担 否)	86名 (17.7%)

れる方が486名(有効回答者の77.6%)でその内400名(82.3%)の方が振込料を負担しても良いとの結果でした。

平成17年度は準備期間もなく直ぐに実施に移せませんが、この結果を踏まえて本年2月5日の役員会で承認を受けました改革のための「WG」(仮称)により検討されることになっていきます。したがって本年は誠にご面倒ですが従来どおり郵便局でお振り込み願います。

事務局 記

支部だより

中国支部

第3回 企業見学会開催

中国支部では、平成16年11月20日土曜日に広島市西区の万国製針株式会社を訪問し、第3回企業見学会を行いました。

同社は世界の針業界におけるトップ企業であり、針の微細で精密な加工技術を基に自動車、電気、化学、医療関連などで多角化を進め、地域のユニークな企業として高く評価されています。

小さな針の完成までには約27もの工程がありますが、そこで扱われる研磨、成形、熱処理、メッキなどの技術は、電気系の技術者である参加者が普段触れることのないものばかりであり、それだけに工程の一つひとつに興味深く見学

させていただきました。

当日は、池内支部長をはじめ11名の会員の皆さまにご参加いただき、万国製針様による原材料の鋼線から縫い針が作られるまでの工程についての丁寧な説明に熱心にかかるとともに、針作りに垣間見ることができ、充実した時間を過ごすことができました。

私は今回はじめて洛友会中国支部の行事を担当させていただきましたが、今後も見学会を実施できるように、企画を継続していきたいと思っております。

平岡 正憲(平10年卒) 記

支部総会開催のお知らせ

平成17年度の各支部総会(別表)が開催されます。会員の皆様には別途案内がありますが、詳細については各支部担当者にお問い合わせください。

事務局 記

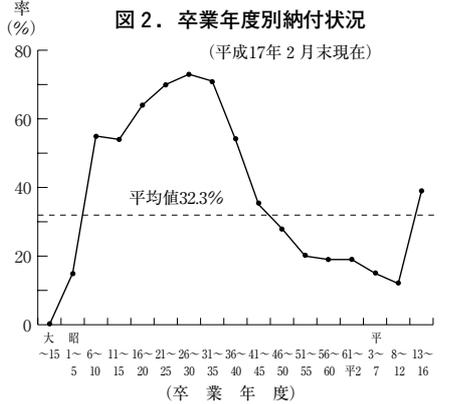
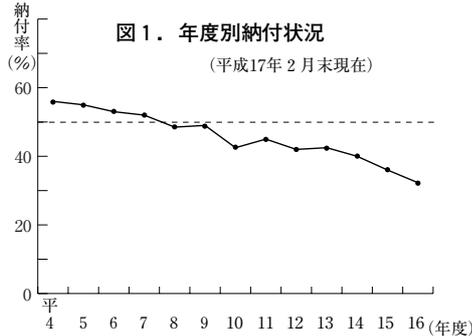
事務局だより

平成16年度会費納付状況報告

平成16年度の会費納付状況についてご報告いたします。

平成17年2月末日現在の会員数は6770名で会費を納めて頂いた会員数は2190名で前年より225名減少いたしました。したがって納付率は32.3%となり過去最

Table with 3 columns: 支部名, 開催日時, 連絡先担当者. Lists various branches like 四国支部, 北海道支部, etc., with their meeting dates and contact persons.



も低い率を記録いたしました。図1は年度別の納付率ですが、右肩下がり傾向で残念です。図2は卒業年度別のグラフを示しますが、曲線のパターンは前年とほぼ同型ですが平均値で3.9%低くなっております。納付方法の改善を実施するとともに会員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。(会員未納の方には4月号以外の会報と名簿はお届け出来ません) 事務局 記

編集後記

今春の桜の開花は例年より遅くなったが、いよいよ春到来となりました。各地の桜の名所では花見客で賑わい華やかな風情です。今年も160名の新会員を迎え益々隆盛ですが、近年会費納付者が減り会費納付率(別途記事参照)が下降の一途をたどり30%台にまで落込んでおります。今回は頂いた原稿の数量が少なく、昨年10月号と同じ6頁構成となりました。最近是比较的若い方々からのご寄稿も多くなっていますが、編集に苦慮しております。原稿をどしどしお寄せ下さい。

事務局 記

訃報

Table listing obituaries with columns for name (e.g., 丸保一, 西川豊蔵), age, and date of death (e.g., 15.9.25).

謹んで哀悼の意を表します。